

令和2年3月18日

プレスリリース  
報道関係者各位

## 釧路校教員が津別町から約2000万年前の 二枚貝の新種を発見

**概要：**北見市南東部から美幌町・津別町にかけては津別層群（つべつそうぐん）とよばれる、古第三紀漸新世後期から新第三紀中新世初期（約2800万～1800万年前）の海で堆積した地層（海成層）が広く分布しています。津別層群から産出する貝類化石群は「達姫-津別動物群」とよばれ、これまでに75種もの化石貝類が確認されています。

2018年に北海道オホーツク総合振興局によって津別町最上（もがみ）で行われた道道27号北見-津別線の工事に伴い、津別層群津別層に由来する貝化石を含む多数の岩塊が得られました。本校の松原尚志准教授は、北見市北網圏北見文化センター、九州大学、産業技術総合研究所地質調査総合センターの研究者との共同研究の一環として、現地調査と産出した化石の研究・標本整理を進めてきました。その結果、腹足類（巻貝）5種、掘足類（角貝）1種、二枚貝類の8種の産出が確認され、このうち、**二枚貝類1種が新種**であることが明らかとなりました。

この**新種**は松原准教授によって *Malletia tsubetsuensis* Matsubara in Matsubara *et al.*, 2020（和名：ツベツスミゾメソデガイ）と命名され、2020年3月20日発行の『北見博物館研究報告』第1号に記載・発表されます（Matsubara *et al.*, 2020）。津別層群からは1996年に4種の化石二枚貝が新種として記載されていますが、今回の発見は**24年ぶり、5種目の新種**となります。

尚、新種の元となった標本や同じ産地から発見された化石貝類は、北見市の北網圏北見文化センターで開催されるミニ企画展「ツベツスミゾメソデガイ～津別町で発見された新種の化石二枚貝～」(2020年3月20日～6月21日)で一般公開されます。

また、研究に用いられた化石標本の画像やデータは「日本古生物標本横断データベース (jPaleoDB) (<http://muse.jpaleodb.org/kitami-c.m/>)」で検索・閲覧が可能です。

## ■化石の産地：

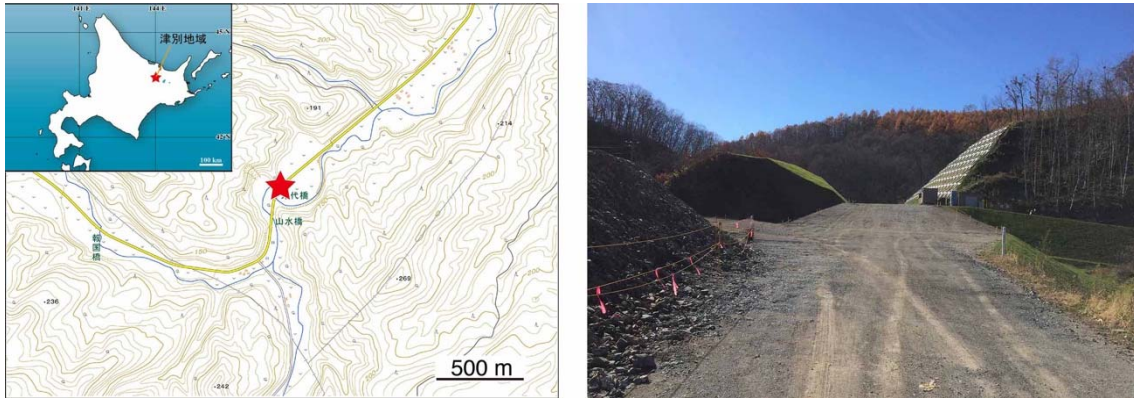


図1. 左：化石産地の位置（地理院地図を使用）．右：化石産地の様子（2018年11月4日松原准教授撮影）．化石は左手前の岩塊の山より採取．

今回研究した化石標本は、道道27号北見-津別線の万代橋の架け替え工事に伴い造成された切り通しに由来する岩塊から、2018年10月～11月にかけて、共同研究グループのメンバーにより調査・採取されました（図1）。尚、現地調査や採取にあたっては、北海道オホーツク総合振興局網走建設管理部の許可を得て行いました。また、工事の完了に伴い岩塊は撤去され、現在、この産地から化石の採取はできません。

## ■産出層準と化石貝類：

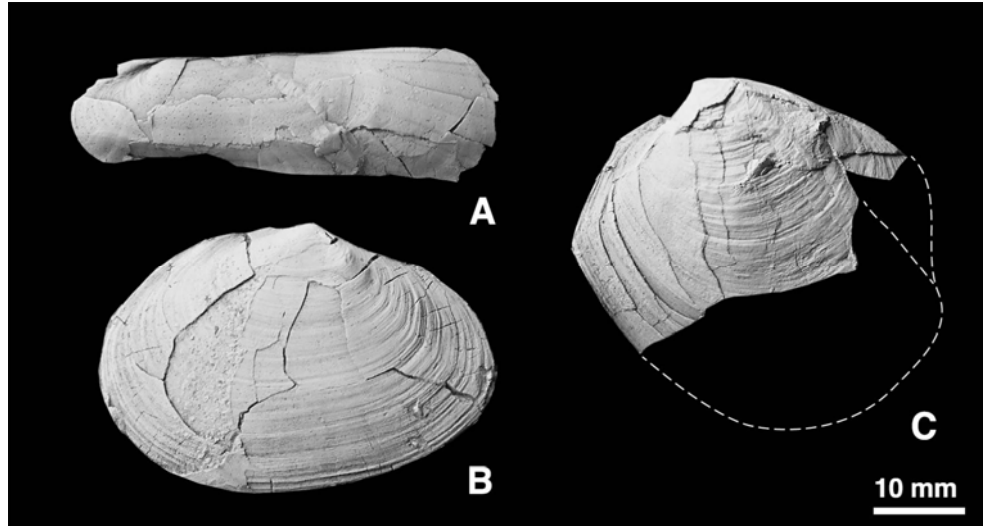


図2. 津別町最上から産出した主な化石貝類.

A: *Acharax tokunagai* (Yokoyama) トクナガキヌタレガイ. B: *Macoma (Macoma) izurensis* (Yokoyama) イヅラシラトリ. C: *Conchocele bisecta* (Conrad) オウナガイ. いずれもシリコンビニール鋳物（キャスト）.

化石産地周辺の地質調査の結果、産出層準は津別層群のうち、上半分を構成する津別層下部の「硬質頁岩部層」であることが分かりました。津別層群津別層の年代は珪藻化石や放射年代から、新第三紀の初めの前期中新世初期（約 2300 万～1800 万年前）であることが分かっています。

室内でのクリーニング作業の後、分類学的研究を行った結果、腹足類（巻貝）5 種、掘足類（角貝）1 種、二枚貝類の 8 種が確認されました。このうち、二枚貝類 1 種が新種であることが明らかとなりました。また、最も多産したのはイヅラシラトリでした（図 2B）。これらのほか、津別層群からとしては初記録となる二枚貝類 2 種（トクナガキヌタレガイとオウナガイ）の産出も確認できました（図 2A, C）。

■新種、ツベツスミゾメソデガイについて：

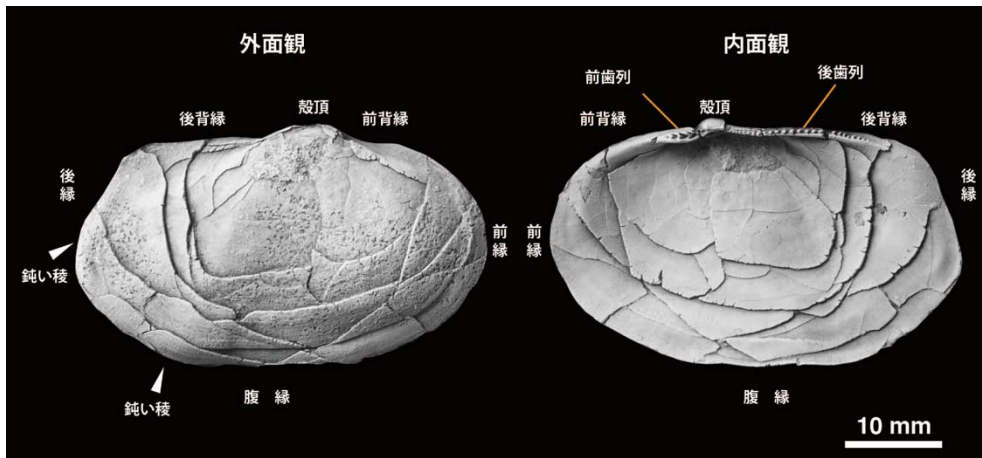


図 3. *Malletia tsubetsuensis* Matsubara in Matsubara *et al.*, 2020 ツベツスミゾメソデガイのホロタイプ（種の基準となる単一の標本；北網圏北見文化センター所蔵 KRMSHA 2-4-MG-009-1）のシリコンビニール鋳物（キャスト）。

スミゾメソデガイ属 *Malletia* des Moulins, 1832 は、二枚貝綱スミゾメソデガイ科を構成する 1 属で、世界中の深海の泥底に生息しています。化石としては、中生代白亜紀以降の地層から産し、日本からは数種の化石種が知られています。また、日本近海には現在、4 種が生息しています。

分類学的研究の結果、津別層「硬質頁岩部層」から産出したスミゾメソデガイ属の種は

- 1) 殻の長さが最大で 53.2mm に達する本属としては大型で膨らみの弱い長楕円形の殻
- 2) 広く丸みを帯びた前縁
- 3) 斜めの裁断状となった後縁
- 4) 殻頂から後腹縁および後端に伸びる 2 本の鈍い稜
- 5) 5～7 本の歯を有する前歯列
- 6) 29～35 本の歯を有する後歯列

などの特徴により、これまでに知られているスミゾメソデガイ属の現生・化石種とは異なる新種であることが明らかとなりました。この新種は松原准教授によって *Malletia tsubetsuensis* Matsubara in Matsubara *et al.*, 2020 (和名：ツベツスミゾメソデガイ) と命名されました。新種名と和名は化石が発見された津別町に由来します。

#### ■研究成果の意義:

##### ①日本列島の新第三紀最初期の貝類化石群に関する新たな知見

日本列島では道東地域を除いて古第三紀と新第三紀にまたがる海成層はほとんど分布していません。今回の津別層群からの新種二枚貝の発見は、新第三紀最初期の北日本の深海にどのような貝類が生息していたかを解明する上で、新たな知見をもたらすものとなります。

##### ②津別層群からの化石貝類の新種の発見は 24 年ぶり

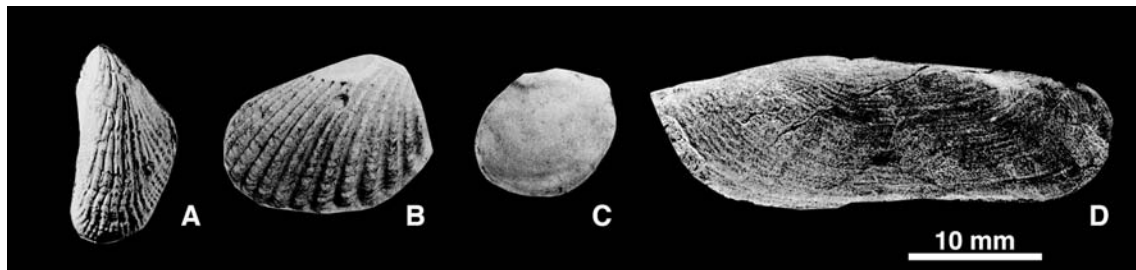


図 4. 1996 年に津別層群から新種として記載された化石二枚貝 4 種.

A: キタミクジャクガイ *Septifer kitamiensis* Morita & Titova in Morita *et al.*, 1996. B: タツコブフミガイ *Megacardita? tatsukobuensis* Morita & Titova in Morita *et al.*, 1996. C: ツベツシラスナガイ *Limopsis tsubetsuensis* Morita & Titova in Morita *et al.*, 1996. D: ツベツニオガイモドキ *Ziphaea tsubetsuensis* Morita & Titova in Morita *et al.*, 1996. いずれも Morita *et al.* (1996: 東北大学理科報告 (地質学), 第 63 巻第 2 号) より編集・転載.

津別層群の地質や古生物については、1996 年に千葉県立中央博物館の森田利仁博士らの研究グループによって総括的な研究が行われました (Morita *et al.*, 1996)。その結果、8 種の腹足類 (巻貝) と 66 種の二枚貝類が識別され、これらのうち、二枚貝類 4 種が新種であることが明らかとなりました (図 4)。今回、発見されたツベツスミゾメソデガイは、津別層群からの貝類の新種としては 24 年ぶり、5 種目となります。

#### <参考資料>

##### 1. 研究グループメンバー (五十音順)

伊藤泰弘：九州大学総合研究博物館 助教 (研究代表者).

太田敏量：北見市教育委員会社会教育部 北網圏北見文化センター 元館長.

兼子尚知：産業技術総合研究所 地質調査総合センター 主任研究員.

中村雄紀：北見市教育委員会社会教育部 ところ遺跡の森 管理係長.

松原尚志：北海道教育大学釧路校地学研究室 准教授.

※科研費 基盤研究(B)「国内古生物標本ネットワークの構築とキュレーティング支援方法の確立」(課題番号 15H02953)の一環として実施.

## 2. 論文の書誌情報

MATSUBARA, T., OHTA, T., NAKAMURA, Y., KANEKO, N. & ITO, Y. (2020) Deep-sea fossil molluscan assemblages from a new locality in the lowest Miocene Tsubetsu Formation in the Tsubetsu area, eastern Hokkaidō, Japan. *Bulletin of the Kitami Museums*, no. 1, p. 1-27.

[和訳]

松原尚志・太田敏量・中村雄紀・兼子尚知・伊藤泰弘 (2020) 北海道津別地域の最下部中新統津別層の新産地から得られた深海性貝類化石群集. 北見博物館研究報告, 第1号, 1~27頁.

※北海道教育大学学術リポジトリから PDF ファイルをダウンロード・閲覧可能.

## 3. ミニ企画展示の情報

ミニ企画展示

### ツベツスミゾメソデガイ ～津別町で発見された新種の化石二枚貝～

博物展示室/令和2年3月20日(金)～6月21日(日)

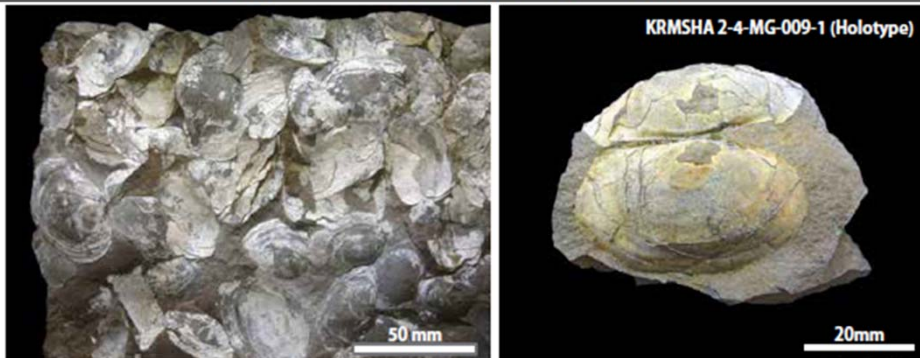


図 4. ミニ企画展「ツベツスミゾメソデガイ～津別町で発見された新種の化石二枚貝～」のイメージ. 展示解説リーフレット(北網圏北見文化センター発行)より.

**「ツベツスミゾメソデガイ～津別町で発見された新種の化石二枚貝～」**

**期 間**：2020年3月20日（金・祝）～6月21日（日）

**場 所**：北網圏北見文化センター 博物館展示室

**主 催**：北網圏北見文化センター

**監 修**：松原尚志（北海道教育大学釧路校）

**概 要**：津別町最上で発見された約2000万年前の新種の二枚貝「ツベツスミゾメソデガイ」などの化石について、研究成果とともにご紹介します。

**観覧料**：一般660円、高校生・大学生390円、中学生以下・70歳以上 無料。

**展示解説リーフレット**：「ツベツスミゾメソデガイ～津別町で発見された新種の化石二枚貝～」。4頁。北網圏北見文化センター。

**【研究成果に関するお問い合わせ先】**

北海道教育大学教育学部釧路校

担当：松原 尚志

（地域学校教育実践専攻 理科教育実践分野 地学研究室）

Tel/fax: 0154-44-3398

Email: matsubara.takashi@k.hokkyodai.ac.jp

※メールでの連絡を推奨します

**【ミニ企画展に関するお問い合わせ先】**

北見市教育委員会 社会教育部 文化財・博物係

（北網圏北見文化センター内）

担当：市川 岳朗

Tel : 0157-23-6742